

# 大阪薬科大学報

20

1989. 5. 25

大阪薬科大学広報委員会



# 記念すべき年

学長 藤田 榮 一

1989年はいろいろの意味で記念すべき年である。まず第一に不幸な第二次世界大戦を経験した昭和という時代から新しい平成に移った最初の年である。第二にわが大阪薬科大学の創立85周年にあたる年である。第三に私自身に関することで恐縮であるが、本学学長として第二期のスタートの年である。

わが国は戦後のみじめな廃虚から立ち上り、今や世界第一の経済大国に発展した。昭和の時代は戦争の勃発と敗戦、混乱、茫然自失の時代を経て、急速な復興に次ぐ高度成長期を迎え経済大国への変身をなした時代である。平成の時代の幕あけとともに、これまでの成長発展を顧みて、じっくりと反省すべき時に至ったといえる。急速な経済成長の結果いわゆる物質文明は栄えたが、政治は腐敗し金権のはばかりの世の中となり、精神的な幸福感やゆとりのある平和な日常生活の享受には程遠い、いわばひからびた精神と疲労した肉体を持った人間がひしめく独特の国家社会が出現した。これが日本の現状であるといっても過言ではない。かつてカルタゴが経済的に急速に発展したが、何ら文化的遺産も残さず没落した歴史的事実を直視するとき誠に寒心に耐えず憂慮せざるを得ない。今の我が国は全く世界から孤立し、世界各国の人々からきらわれ者になっている。日本人一人々々を見れば、そのほとんどが心やさしく親切で良心的な人ばかりのように思う。それにもかかわらず外国からきらわれている事実は卒直にみとめざるを得ず、大いに反省しなければならない問題である。

日本人の最もきらわれる点は何であろうか。私は嘘をつくことではないかと思う。日本では嘘も方便という諺があるように、嘘をつくことは屢処世術としてあまり気にせず用いられているが、外国とくに欧米では嘘をつくことは最も悪いこと、卑劣なことで子供の時から教え込まれていて非常に徹底している。このような顕著な相違点に加えて日本人の謙虚な態度がイエスとノーのつかいわけをあいまいにし、外国人に誤解を招く結果になることは否めない。本音とたてまえなど日本独特のやり方のみなおしを十分に行って外国人と接することが最も必要であろうと思う。すなわちあくまで正直に本音でつきあうべきであろう。

本学は今年創立85年となる。その歴史は本学80年史

に詳しく御参照いただきたいが、一口に85年といえど簡単であるが、その年月にずっしりとした重みを感じる。創立以来様々の屈曲をのりこえて発展の歴史を歩み、輝かしい伝統をつみあげてきた。この伝統と歴史を継承しつつ、新たな進展向上を目指して歩みつけてゆかなければならない。私は本学の特徴は、質実剛健、堅実、清潔といった言葉であらわされるように思う。スローバットステッディーな歩みがつみ重ねられてきたように思う。これは大変貴重な経過であり、派手さや華やかさはないが、地味で賢実でしかもクリーンな大学として特徴づけられよう。

私は昭和60年4月1日本学学長として就任した。平成元年3月31日をもって任期を終了したが、このたび再選され、さらに4月1日から向う二年間学長を仰せつかった。四年間に何一つ貢献することなく甚だ汗顔の至りであるが、教員の定員と組織に関して新制度を確立したこと、研究面での推進をはかったこと、教員の海外留学、海外視察、海外からの学者の招待講演、海外からの研究生、留学生の受入れを通じての国際交流の推進などが、強いていうならば、努力したことといえるであろう。本学の将来の発展を目指し、よりよいキャンパス建設のための移転候補地を求めて東奔西走したが、実りある成果を得ることができなかったのは誠に残念である。

もう一つ私が心をくいだいた点は学内の和が常に保たれるということであった。議論は自由に活潑に行い、十分に意見を述べあつた上でできるだけ総意に沿った企画をし実行するように努力したつもりである。

新しい任期の初めにあたって、最善を尽して二年間頑張つてゆきたいと決意を新たにしている。

学内の平和と調和を基礎とする運営、将来性豊かな構想にもとづく学部ならびに大学院の拡充、新しい教育研究の開発、そのためのカリキュラムのみなおし、研究環境の改善等々山積する重要課題の解決のため、建設的プランの推進に向けて努力を重ね、本学の益々の発展を期したい所存である。どうぞ理事、評議員、教員、職員、同窓会員、父兄会員はじめ関係各位の皆様方の倍旧の御支援、御協力を心からお願いしたい。

(平成元年3月29日)

## 新入生を迎えて

教務部長 栗原 拓史



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。若草もえるこの陽春の季節に、ここ大阪薬科大学に入学された皆さんを心から歓迎いたします。本学は学生総数1200名足らずの単科大学で、全国に多く

ある私立薬科大学と同様に薬剤師を世に送るといふ社会的使命をまず担っている大学です。薬剤師は薬学部の卒業生だけが持ち得る医療職であり、その上にたつて国民の健康と幸福に寄与する重要な職務であることは言うまでもありません。そうした方面での将来の活躍を期待して薬学を選んだ人もきっと多くいることでしょう。一方、さらに深く薬学を探求し、薬学修士、薬学博士などの研究者を育てる研究機関でもあり、本学はそのいずれにおいても諸君に応え得るカリキュラム、設備、スタッフを持ち合わせております。

学問の進歩と共にますます多様化する薬学にあつて、薬学部6年制が論じられている昨今、この決して長くない4年間に一般教育科目、外国語科目、保健体育科

目そして専門教育科目とそれに関する実習が1回生から4回生前期にわたりぎっしりと組み込まれております。これら基礎薬学の教育に加えて、社会のニーズに応えるべく4回生後期には学内実習（各研究室に所属し、専門的な研究に従事する）と学外実習を希望する組に分け、さらに学外実習は医療薬学、応用薬学、臨床検査コースを希望させ、より専門的な知識の吸収を修得できるように図られております。入学したばかりの皆さんに今すぐ自分の将来を見極めることは困難でしょう。しかし、強制された受験勉強からの解放感に浸っている時はすぐに経ってしまいます。希望通り本学に入学された人、残念ながら第一希望ではなかったがという気持ちを抱きつつ入学された人——諸君にとって最も大切なことは、そうした過去からいち早く頭を切り換え、今ベストを尽くすことにあります。その積み重ねが自ずと明るい未来を約束してくれることでしょう。

さて、私自身図らずも4月からこの大役を命ぜられた新米教務部長ではありますが、他の2名の教務部委員の先生（木村助教授、中元助教授）、教務課の職員の皆さんと少しでも新入生諸君の入学当初のいろいろの疑問点に対応できるよう務める所存です。

## 新入生を迎えて

学生部長 望月伸三郎



新入生の皆さん、ご入学お目度うございます。日本は今、経済的成功により国民所得は世界一と言われております。しかし、先進国の潮流は経済の豊かさよりも文化的生活の質を問う時代になっています。

文化は人間生活のあらゆる面に及ぶものですが、最近には特に「健康」への見直しが注目をされております。平均寿命でも世界一となった長寿国の日本ですが、昨年6月発表された国民医療費は17兆690億円となり、前年度より6.6%増で国民1人当たり14万3000円になったと報じています。これは国民所得の伸び率4.1%を上回っていますから、このままでゆくと医療費が国の財政に大きく響くことを示しています。それは皆さんが精一杯働いた後、体力も衰え、年金とか福祉施設の必要を求める現役引退の頃となると他人事ではありません。

医療総額から歯科、薬局調剤費を除いた一般診療費は14兆9209億円のうち、65才以上の一般診療費は38.3%、1人当たり44万3500円と平均12万2600円の3.6倍となっている。健康な老後生活の大切さを示すこととなります。また、薬の使用も世界最多消費国の1つとして挙げられています。薬漬けの長寿国、国民所得の伸び以上の医療費と言った問題を抱えて、健康で文化的な生活と言えるのでしょうか。近頃の話題に「フロンガス」による影響をはじめ、地球の環境汚染と子孫への快適生活の配慮を基本にした健康生活のあり方が論議されています。薬剤師の資格を取って自分の生活の安定を計ることも大事ですが、同時に子孫への快適生活を留意することの重要性を意識するには、幅広い教養と高い知性が求められます。

国際社会に生きる今日、1人々の教養が国家間の文化尺度として評価されます。本学には先輩の在学生より科目の偏重を示唆するアドバイスが受け継がれて教養課程の科目を疎かにする傾向がありますが、広い視野に立つて専門性を生かす勉強を、運動に、文化クラブの活動に、青春を謳歌した学生生活を送って下さい。



## 昭和63年度学部卒業生進路状況

就職部長 沼 田 敦

大学の最終学年を迎えると、いよいよ卒業後の進路を決定しなければならない。これは人生を左右するとも云える重大な選択であるだけに、慎重かつ早期の決断が必要である。ここに主として昨年度の学部学生の進路状況を紹介します、進路決定の参考に供したいと思う。

表Ⅰに示すように、男子学生では企業就職者および大学院進学者が大半を占め、女子学生では進学者は少なく、企業および病院勤務が大勢を占めている。就職希望者のうち就職できた者の割合は表Ⅱに示す通りで、過去5年間で最高の好成績を得ることができた。この原因としては求人件数が増えたこと、また就職に消極的な学生が少なかったことが挙げられる。現在就職を決定していない学生には就職に対して積極性がなく、国家試験の結果を待って考えようとする人が多く、今年度は昨年度の学生より更に積極的に就職活動されるよう期待している。

男子学生の大半が就職した職種は薬業会社の医薬情報担当（営業）であり、研究開発・品質管理等の技術系に職を得た者は少ない。これは求人件数と大いに関係があるが、技術系についても中小企業から男子学生が強く求められていた。しかし、希望者が少なく折角の求人に対応できなかった。この職種に対しては大学院生が優利であることは言うまでもないが、学部学生も就職可能であると思う。医薬情報担当者は学生総数の増減にかかわらず、例年30名程度であるが、昨年度は一挙に52名に急増したのが特徴である。

女子学生で病院と企業に就職する人数を比較すると、昭和61年度以前では前者の方が多かった。しかし、昭和62年度にはこれが逆転し、企業勤務が66名に対して病院勤務が48名となり、昨年度は更に企業勤務が大幅に増えて80名、病院勤務が43名と云う結果になった。この傾向は週休2日制を希望する学生の増加に起因するものであり、これから更にこの差が大きくなるようにするために、病院における勤務条件、待遇の改善が望まれる。

学生の就職先の選択には2つのタイプがみられる。

一つは知名度の高いところであれば職種を問わない、もう一つは職種を重視するタイプである。私は必ずしも知名度にこだわることなく、自分の能力を認めてくれ、自分の将来が期待できる就職先を見出すことが重要であると思う。学生諸君が応募されることに希望がかなえられることを祈っているが、求人側は能力と人物評価により厳しく選択するので、希望通りにならないことがしばしば起こる。したがって、就職活動の過程で希望修正をすることも肝要である。求人側は積極性があり、明るくはきはきした感じの良い人物を求めている。それは人間関係で重要なものを備えた人物であるとの判断によるものであろう。したがって、常日頃人間関係を大切にし、人間性を高めるよう努めて頂きたいと思う。病院薬剤師や管理薬剤師には当然薬剤師の資格が必須であり、また、折角就職の内定を受けても留年となつては就職活動の努力がふいになるので、勉学にも力を入れて頂きたいと思う。

表Ⅰ

昭和63年度卒業生進路（平成元年3月20日現在）

進 路	男(人)	女(人)	計(人)	%
会 社	64(12)	80	144(12)	55.0
医薬情報担当（営業）	52	2		
管理薬剤師		6		
研究開発・品質管理・学術	12(12)	72		
病 院（薬局）	4	43	47	17.9
薬 局	1	6	7	2.7
公 務 員	5	3	8	3.0
大 学 職 員	0(2)	8(1)	8(3)	3.0
自 家 業	1	0	1	0.4
大 学 院	23(1)	4	27(1)	10.3
病院研修生	2	4	6	2.3
研 究 生	0	0(1)	0(1)	
未 定	3	9	12	4.6
就職を希望しない	0	2	2	0.8
計	103(15)	159(2)	262(17)	100

（ ）内の数字は大学院修士課程修了者の人数

## 太田長世教授退職——名誉教授に

太田長世教授は平成元年3月31日付をもって嘱託教授を退かれた。御退職に先立ち、3月25日(土)午後2時より約2時間にわたり、本学31教室において、“わたしの生業めぐりあい”と題して退職記念講演会が行なわれた。講演会には教職員、学生はもとより伝え聞いた卒業生も多数聴講のため駆けつけ、太田教授の本学における永年の功績を賛えた。



なお、太田長世教授には、教育上、学術上の功績が認められ、元年4月1日付で、大阪薬科大学名誉教授の称号が贈られた。



表Ⅱ  
過去5年間の就職・求人状況（各年度末現在）

年度	学部卒業生数(人)		就 職			求 人	
			希望者数(人)	決定者数(人)	決 定 率(%)	事 業 所 数	求 人 数(人)
59	男	110	72	66	92	467	1366
	女	180	163	141	87		
	計	290	235	207	88		
60	男	99	65	62	95	479	1192
	女	149	128	116	91		
	計	248	193	178	92		
61	男	102	74	62	84	403	1234
	女	185	164	141	86		
	計	287	238	203	85		
62	男	79	61	54	89	468	1333
	女	154	145	128	88		
	計	233	206	182	88		
63	男	103	76	74	97	532	1478
	女	159	149	139	93		
	計	262	225	213	95		



# 平成元年度予算の概要について

事務局長 吉 野 幸 夫

去る3月27日に開催された理事会および評議員会において、平成元年度予算が決定されたので、従来の例にならない、消費収支予算書の総括表によって、その概要を説明することとした。

## 消費収入の部について

平成元年度における収入予算は、帰属収入から基本金組入額を差し引いて、16億6762万円で、前年度比6640万円増となるが、その要点は、次のとおりである。

- 学生納付金……授業料・入学金等を内容とするもので、当年度においては、昨年度の入学生から授業料を増額したことに伴い、前年度比2200万円増の12億8220万円を計上。
- 手数料……入学検定料を主たる内容とするもので、当年度においては、最近の志願者の状況にかんがみ、前年度比1230万円増の8020万円を計上。
- 資産運用収入……銀行預金の利息を主たる内容とするもので、当年度においては、約定期日との関連上、前年度比4000万円増の1億6000万円を計上。

## 消費支出の部について

平成元年度における支出予算は、17億5894万円で、

前年度比7252万円増となるが、その要点は、次のとおりである。

- 人件費……教職員の給与費・退職金等を内容とするもので、当年度においては、予想されるベースアップを推算するとともに、本年度末における退職予定者に対する退職金の増を考慮して、前年度比5653万円増の11億2123万円を計上。
- 教育研究経費……教育研究用の消耗品費・光熱水料等を内容とするもので、当年度においては、研究設備の充実に伴う経費増を考慮して、前年度比1458万円増の5億2420万円を計上。

## 基本金組入額について

消費収入の部にある基本金組入額は、所定の組入額のほか、当年度においても、昨年度に引継いで将来の校舎建築のための資金として、1億円を計上した。

## 翌年度の繰越額について

以上により、平成元年度における消費収支は、9132万円の支出超過となるが、前年度からの繰越額が3億1484万円あると見込まれるので、差引きすれば、平成

## 平成元年度消費収支予算書総括表

[平成元年4月1日から  
平成2年3月31日まで]

消費収入の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)
学 生 納 付 金	1,282,200,000	1,260,200,000	22,000,000
手 数 料	80,200,000	67,900,000	12,300,000
補 助 金	390,200,000	391,200,000	△ 1,000,000
資 産 運 用 収 入	160,000,000	120,000,000	40,000,000
事 業 収 入	15,920,000	17,920,000	△ 2,000,000
雑 収 入	47,100,000	41,000,000	6,100,000
帰属収入合計	1,975,620,000	1,898,220,000	77,400,000
基本金組入額合計	△ 308,000,000	△ 297,000,000	△ 11,000,000
消費収入の部合計	1,667,620,000	1,601,220,000	66,400,000

消費支出の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 (△)
人 件 費	1,121,230,000	1,064,700,000	56,530,000
教 育 研 究 経 費	524,200,000	509,620,000	14,580,000
管 理 経 費	67,490,000	64,760,000	2,730,000
借 入 金 等 利 息	16,020,000	17,340,000	△ 1,320,000
[予 備 費]	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	1,758,940,000	1,686,420,000	72,520,000
当年度消費支出超過額	91,320,000	86,200,000	
前年度繰越消費収入超過額	314,840,000	292,210,000	
翌年度繰越消費収入超過額	223,520,000	207,010,000	

2年度への繰越額は、2億2352万円となるものと算定される。

#### 消費税との関連について

本年4月1日から消費税法が施行され、各方面に種々の影響が現れているが、大学にもその影響があり、収入の部においては、授業料と入学検定料は非課税と

されているが、入学金・設備費・公開講座収入等は、課税されるものとされており、他方、支出の部においては、備品・消耗品の購入には、消費税が加算されるので、その分は実質的に収入減および支出増となり、上記予算についても、相当程度の影響があるものと予想される。

## 学生部だより

### 学生証（身分証明書）について

1. 身分証明書欄の5桁の数字は「学籍番号」で上2桁の入学年（西暦）と下3桁の出席番号との組み合わせとなっています。出席番号は留年のため変更がありますが、学籍番号は卒業まで一切変わりません。したがって卒業後、成績の照会や再就職の斡旋依頼の時など学籍番号を利用すると便利です。覚えておいて下さい。
2. 学生証の有効期間は発行日から翌年の3月31日（ただし卒業、退学等のため本学の学籍を離れたときはその日まで）です。
3. 学割（発行は1回2枚以内、年間10枚以内）や在学証明書等の申込、受取りには本人確認のため必ず学生証の提示が必要です。常に携帯するよう心がけて下さい。

### 健康管理について

#### 1. たばこ

たばこは基本的には個人の趣味、嗜好の問題ですが、周囲の人に与える迷惑、つまり「消極的喫煙」の害を考えるべきです。特に食堂内では清浄な空気のもとでお互い気持ちよく食事ができるように全面禁煙となっています。また廊下等でのくわえたばこやポイ捨てはやめ、吸いがらは必ず所定の吸がら入れを利用し、学内美化にご協力下さい。

#### 2. お酒

4～5月にかけて各クラブで新入生歓迎コンパと称して飲酒の機会が増えます。また受験生活からの解放感や生活環境の変化からのストレスの発散手段として例年アルコールに頼る人が増えてきます。（特に下宿学生にその傾向が見られます）今はやりの「一気飲み」は急性アルコール中毒の直接原因で意識混濁から場合によっては死に至ることもありますので十分注意して下さい。

また大量の飲酒を習慣的に継続すると自己制御不能の「アルコール依存症」に陥ることもありますので、各自の体調、アルコール耐性をよく知り、日頃からその飲み方、量等に十分注意して下さい。

## 学生寮だより

今年も北は静岡県、南は山口県から36名もの新入生が入寮し、現在計88名が寮母、寮長の指導のもと自主的な共同生活を送っています。

### ○ 新年度春の学生寮関係の行事予定

- 4月22日（土） 防火避難訓練（消火器操作、救助袋使用法）
- 4月24日（月） 新入寮生歓迎会（寮食堂）
- 5月13日（土） 新入生歓迎会（学友会主催「五月祭」）

### ○ 新入寮生状況（出身府県・人数）

- 兵庫9、広島5、山口4、愛知3、三重3、大阪2、滋賀2、愛媛2、岡山2、静岡1、京都1、奈良1、和歌山1



## 新任の挨拶



講師 黒田 和道

このたび私は、永い伝統を誇り、有為な人材を数多く輩出してきた本学に、第二微生物学教室講師として奉職する栄を与えられ、誠に光栄に存じております。

さて、私は、京都大学大学院を終了後、西ドイツ留学の機会を得、6年余りの滞在の後、この度ようやく本学に職を奉ずる希望が適い、帰国することとなりました。この間、大学院ではもとより、西ドイツ滞在中も、語学の問題もあり専ら研究のみに従事してまいりました。しかしながら、この度与えられました講師という職におきましては、研究活動だけでなく、教育ということがより重要となります。研究、特に私の専門分野では、ひとりで行なう実験、研究がほとんどで、自身の興味のあることだけを行なえば良く、他の人

のことを考える必要はありませんでした。これに対し教育活動は、他の存在があってはじめて成立するものであり、研究活動とは大きく異なります。従って、同じ大学での生活とは言え、本学に奉職しますことは、私にとって180度の転換と言えるほどの変化であり、身の引き締まる思いを致しております。

近年、遺伝子工学の発展と共に、バイオブームと言われるほどに、至る所で「バイオ」の文字を見掛けるようになっていきます。ただ、文字の氾濫の割には、一般において、その意味するところ、内容が正確に理解されていないようであります。一部では、明日にでも人工生物が作られ、怪物が次々と産み出されてくるかのように考えているようであります。しかしながら、少しでも遺伝子工学を学べば、その可能性の低さを、すぐに納得できるでしょう。この例にありますように、専門の者と一般の人との間の断絶が無用の不安を引き起こす例がしばしばあるようです。これからの教育活動を通じ、一步でも一般の世界へ近ずき、この断絶を埋める役割りを少しでも果たせれば、などと考えている次第です。何分、私自身浅学非才の身ではありますが、本学の興隆発展に些かでも貢献できるよう精励する所存であります。今後皆さまのご指導ご協力をお願いしつつ新任の挨拶とさせていただきます。

## 教務課だより

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。入学できた君達自身の努力、そして両親はじめ多くの協力者のあったことを忘れないでほしいと思います。新しい大学生活に入りしばらくすると、勉強のこと、将来のことを考えて新たな不安に落ち込み、一人で悩む人がいますが、こういう時はアドバイザーの教員、あるいは自分がよく理解出来ない科目の担当教員の所へ相談に行くことです。またクラブを利用して友人を作ってください。この世の中は一人では何事も成し得ないので、困った時は人と話し合うことが大切です。

そうして自分の目標に向かって明るく前進し4年間を無事終えて頂きたいと思います。

ガイダンスでも説明がありましたが、ここでもう一度お願いしておきたいことがあります。学校に来たら正門左側、教務課前の掲示板を毎日必ず見て下さい。呼び出し、時間割変更、各種届等すべて掲示で行い、期限が経過すれば見たものとししますので注意して下さい。

学則、学科履修規程、教授要目はよく読んで、選択科目履修届、受験届、定期試験、再試験、進級、留年等について理解して下さい。

その他修学上の問題で解らないことがあれば、そのまましておかないで、何時でも気軽に聞きに来て下さい。私達は誠意をもってお答えします。

### 臨床検査技師国家試験について

従来薬学を卒業した者は、臨床検査総論Ⅱ、臨床生理学、臨床化学、医用電子工学概論の4科目を受験すればよかったが、平成2年1月1日からは、医用工学概論（情報科学概論、検査機器総論を含む）、公衆衛生学（関係法規を含む）、臨床病理学総論（臨床医学総論、医学概論を含む）、臨床検査総論（検査管理総論、医動物学を含む）、病理組織細胞学、臨床生理学、臨床化学（放射性同位元素検査技術学を含む）、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学の10科目を受験することになるので、受験を考えている人は、そのつもりで準備をして頂きたい。



## 国家試験の結果について

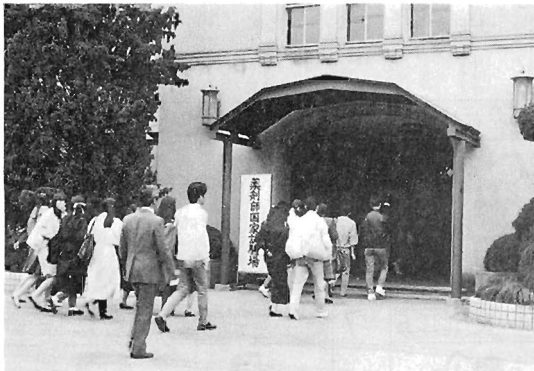
本年度春に施行された薬剤師ならびに臨床検査技師の国家試験の成績は次の通りであった。

### ◎薬剤師国家試験

第74回(元. 4. 2～4. 3 施行, 元. 4. 28発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
289名 (262名)	259名 (243名)	89.62% (92.75%)	84.03% (88.66%)

※括弧内は、新卒者(平成元年3月卒業)の数値を示す。



参考として過去5年間の春の薬剤師国家試験の成績を記した。

薬剤師国家試験合格状況(春・過去5年)

年(回)	総合(%)	新卒(%)	その他(%)
60 (68)	84.13	87.59	61.36
	80.53	85.32	48.65
61 (70)	67.87	71.95	35.48
	64.86	69.85	31.52
62 (72)	91.51	96.50	46.88
	91.17	94.71	57.70
63 (73)	87.94	91.81	52.00
	86.65	89.72	51.19
平成元 (74)	89.62	92.75	59.26
	85.40	89.72	55.60

※上段は本学, 下段は私立薬系大の平均の数値を示す。

### ◎臨床検査技師国家試験

第35回(元. 3. 19施行, 元. 4. 28発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
9名 (5名)	4名 (3名)	44.4% (60.0%)	51.5%

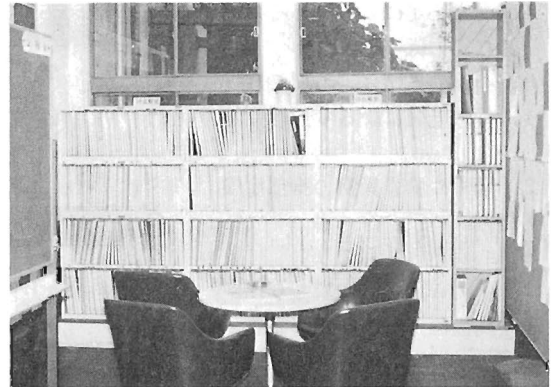
※括弧内は、新卒者(平成元年3月卒業)の数値を示す。

## 就職部だより

本館1階にある就職資料室(写真参照)は就職情報の宝庫です。

薬業会社, 病院, 薬局等のパンフレットおよび各種情報誌をとりそろえて, 最新データへの供給に努めていますので4年次生だけでなく, 1～3年次生も自由に活用して今後の就職活動に役立ててください。

一方, 卒業生対象の求人も豊富にありますので, 転職や再就職の斡旋を希望される方は随時学生課までご相談下さい。



			企業史等
小売薬局 (ア～タ)	小売薬局 (タ～リ)	卸会社 (ア～ワ)	病院 (大阪府)
薬業会社 (ア～カ)	薬業会社 (カ～コ)	薬業会社 (コ～ス)	病院 (大阪府以外)
薬業会社 (セ～ト)	薬業会社 (ト～ニ)	薬業会社 (ニ～ヒ)	その他企 業・団体
薬業会社 (フ～ホ)	薬業会社 (マ～ワ)	その他企 業・団体	その他企 業・団体

## ■保健室だより

### 肩こり

肩こりは子供にはあまりみられないのが普通ですが、最近ではテレビゲームや受験勉強などで、その影響が出ているようです。しかし大人になるとそれも年をとるにつれて肩こりを訴える人が確実に増えています。

(症状) 肩および肩周辺がなんとなくだるいという違和感や首から肩にかけて筋肉が硬くなって重圧感を覚える。

(原因)

#### A. 生活環境による肩こり

1. 肩の使いすぎや前かがみの姿勢での長時間の緊張
2. 精神的なストレス
3. 姿勢の悪さによる肩とその周辺の筋肉の緊張
4. 運動不足による肩とその周辺の筋力低下

#### B. 身体の異常による肩こり

1. 骨の老化による変形性頸椎炎
2. 鎖骨や胸骨異常の胸部症候群
3. 心疾患(左肩こり)
4. 胆のう疾患(右肩こり)
5. 高血圧、動脈硬化(頭痛・肩こり)
6. 低血圧、貧血その他(肩こり、めまい、頭痛などの不定症状)

Bの1～6のように、はっきりした病気のためその症状としての肩こりの場合、休養を十分にとり環境を変えるなどの工夫をするとともに早く医師と相談するのがよいでしょう。

(対策)

1. 肩こりを防ぐ体操(図1～10参照)を毎日朝晩行なう。(特に首まわし、肩まわし、胸のはりすくめ、背のび運動は効

果的です。)

2. 肩とその周辺の筋肉を十分に動かすスポーツ(キャッチボール、卓球、テニス、バドミントン等)は気分転換にもなり精神的ストレスの解消に最適です。
3. あんま、マッサージ、肩たたき等も、しこりが和らぐので効果的です。
4. 肩こりは室内作業で長時間、同じ姿勢を保つ時に発生しやすいので、2時間に1回ぐらいの割合で散歩など戸外の空気に接し気分転換を図ることも大切です。



マルホ㈱発行：運動療法の手引き－1「くび(頸)・肩の体操」より転載

## 第二微生物学教室

教授 保坂 康弘



本学に、保坂が赴任してから約1年、スタッフも揃い、研究設備もある程度整備されたので、全員元気でこれからの前進を期している。スタッフは以下の通り。講師の黒田和道博士、助手の鶴岡浩志博士、研究生の天野拓之医学士、工学士、院生の豊田憲子

さんと6人の特別実習生。

研究テーマは、大学院研究科の研究内容に記載されてあるように、ウイルスの遺伝子の構造と機能に関する研究、Tリンパ球の感染防御機能の研究、ウイルスの超微構造の研究である。実際には、インフルエンザウイルスを用いてそのT細胞応答、同ウイルスの遺伝子の加工や加工遺伝子産物の免疫学的研究、ワクチンなどの抗ウイルス剤の研究などを、遺伝子組換え技術、細胞クローニング手法などを用いて研究していく。特に遺伝子組換え実験をするのに必要な安全キャビネットが最近、研究室内に設置されて、この分野の研究がとりあえず実施出来るようになった。また平成元年度

の私学助成『遺伝子解析システム』の取纏めのお世話をしたが、本システムが認可、導入されると、非常に研究がやり易くなる。実験動物センター内の感染実験区域の整備の見通しもついたという朗報もあって、みんなの元気が湧いてきている状況である。更に、優れた電子顕微鏡があり、優秀な電顕技術研究者、岩本氏がいるので、協力を得てこの方面の研究を進めたい。

黒田講師(理博)は、6年間にわたる西ドイツ、ギーゼンのウイルス研究所留学を終了してこの3月末に帰朝したばかり、赫赫たる研究成果をあげたのはもとより、ドイツ語も堪能、スキー、スクワッシュもOKという富山県人。

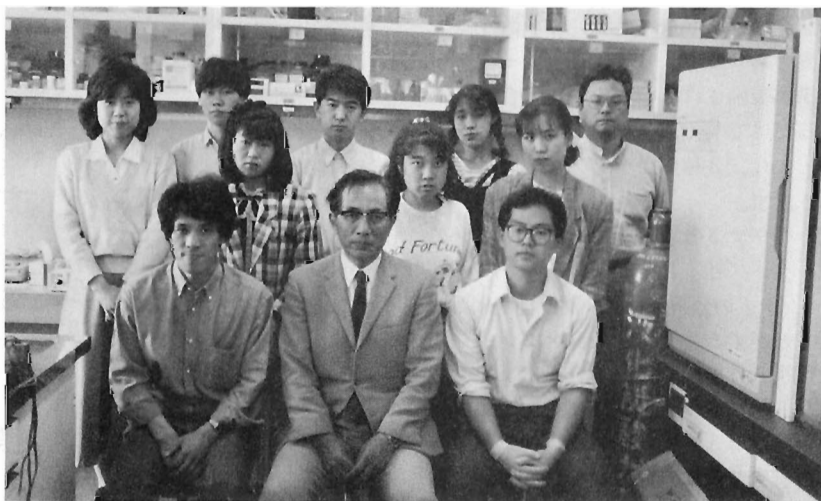
鶴岡助手(農博、獣医)は、東大医科研の大学院を終了後、阪大微研研究生をへて、昨年11月に本学に赴任、多芸多才の愛媛県人。

天野拓之氏は、東大工学部卒、阪大医学部卒業の産婦人科医。現在、ウイルス研究の仕事の完成を通じて、医学博士をめざしている。囲碁に堪能、山口県人。

保坂は名古屋大医卒、阪大微研助教授を経て本学へ。趣味はテニス、音楽鑑賞、旧跡散歩。

薬学出身者は当教室には現在いないが、お隣の第一微生物学教室の稲森教授、辻坊博士(共に薬学出身)がよき相談相手なので、薬、医、理、農の4分野の頭脳が集まってユニークな研究をしたいと思っている。

昨年暮インフルエンザウイルスの流行時に、本学の罹患学生から、ソ連型インフルエンザウイルスを分離して松原株と名づけた(電子顕微鏡学会発表予定)。今後とも諸大兄の御指導と御鞭撻をお願いします。



前列左から 黒田講師、保坂教授、鶴岡助手

後列右端 天野研究生、二列目の中央 豊田院生、他は4回生

## ●機器紹介

# 生体機能性微量タンパク質の構造解析研究装置

本学では、生体内微量物質を取り扱う研究者が年々増加しており、動・植物や微生物からの生理活性物質の単離と合成あるいは生体制御に重要な役割を果たしている酵素タンパクの構造解析とそれらの生合成及び遊離機構に関する研究が行なわれています。さらに、タンパク質と核酸との相互作用に関しても精力的な研究が行なわれ、幾多の成果を収めつつあります。しかし、従来の手動法による設備だけでは、その解析の精度及び効率が悪く、十分な対応ができませんでした。今回本学に、上記の研究装置が設置され、タンパク質やペプチドのより詳細な構造解析を行うことが可能となりました。本装置は、生体微量タンパク質のアミノ酸配列を自動的に決定するとともに、目的とするタンパク質、ペプチドを自動的に合成し生体機能を解析するシステムであります。本システムは次の装置から構成されています。

### ① アミノ酸配列自動解析装置（アプライドバイオシステム社 477A型）

超微量のタンパク質、ペプチドを試料とし、N末端より自動的にアミノ酸残基を45分ごとに順次、決定することができます。

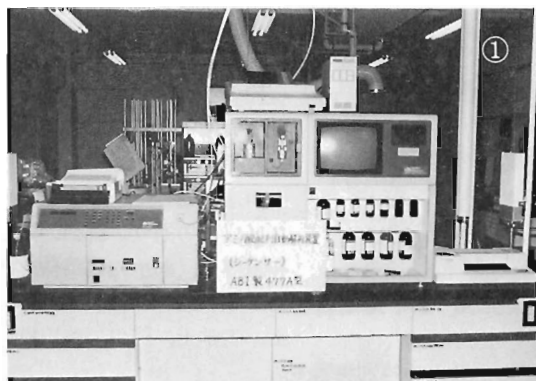
### ② タンパク質、ペプチド自動合成装置（LKB社 Biolynx 4170型）

世界で初めて開発されたFmocポリアミド活性エステルを用いる装置であります。リアルタイムモニター及び自動遮断機構が装備されていますので、合成収率が一目瞭然であるだけでなく、無駄なペプチド合成は行なわれません。また、3種類のペプチドを同時に合成することもできます。

### ③ タンパク質、ペプチド分取分析用液体クロマトグラフ（ウォーターズ社 LC303型）

タンパク質、ペプチドの分析条件の検討、純度確認、精製分取を行うことができます。4液混合グラジェント方式と三次元可視紫外検出器の組み合わせによって、分析条件の検討が非常に簡便かつ正確に行えます。

以上、本学に新たに導入された生体機能性微量タンパク質の構造解析研究装置について簡単に記述しましたが、今後多くの研究者によって有効に利用されることを望みます。  
(森本史郎)



## 学位授与

薬学博士（平成元年1月31日）

論博第2号 難波 哲人

酸アミドを用いるヘテロ環の合成と反応性に関する研究

論博第3号 清水 利勝

新規利尿薬 S-8666 の利尿および尿酸排泄作用に関する薬理学的研究

薬学修士（平成元年3月20日）

修第85号 加島 竜彦

(±)-4-アリルテトラリン型リグナン類の合成

修第86号 渡邊 達也

褐藻ウミトラノオの細胞毒性成分に関する研究

修第87号 谷口 雅彦

Edgeworthia chrysantha LINDL. のクマリン成分に関する研究

修第88号 奥山慎一郎

脳イメージング放射性医薬品の開発を目的とした放射性ヨード標識フェノキシン酢酸誘導体の合成及びその生体内動態

修第89号 松原 義隆

2-Oxotetrahydro-1,3-oxazine の生成とその脱炭酸-再閉環によるテトラヒドロピリジン、インドリチジン、キノリチジン骨格の合成に関する研究

修第90号 中谷 恵美

ウサギ胃幽門部粘膜層におけるプロスタグランジン合成に関する研究

修第91号 小田 俊男

タイワンコブラ (*Naja naja atra*) 毒由来神経成長因子の全アミノ酸配列

修第92号 藤井 忍

ウシ膵臓 Phospholipase A<sub>2</sub> の酵素反応速度論

修第93号 佐藤 浩史

Elaphe climacophora (アオダイシヨウ) 筋肉中の血圧降下作用物質の単離精製

修第94号 中村 孝祐

リポソームおよび中鎖脂肪酸による薬物角膜透過に及ぼす影響に関する研究

修第95号 深野木 信一

ポリビニルアルコールハイドロゲルを用いたβ-遮断薬の持続性直腸投与型製剤の開発

修第96号 大山 但

ラット腎機能におよぼす L-threo-3,4-dihydroxy-phenylserine の影響

修第97号 福石 信之

培養細胞におけるシスプラチン毒性とその発現機構に関する研究

修第98号 中橋 義弘

フルオレセイン誘導体の蛍光性試薬としての利用

修第99号 山口 敬子

制がん活性を有する白金(II)錯体の二量体生成反応に関する研究

修第100号 友尾 幸司

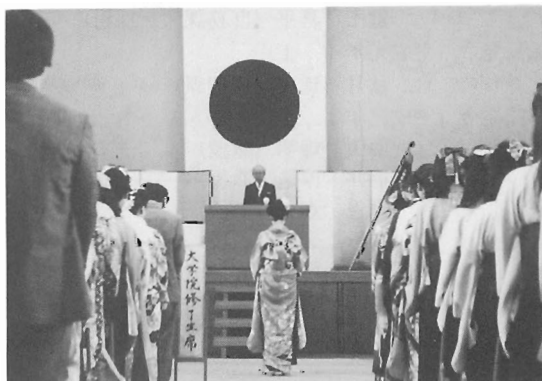
日本産マムシ *Agkistrodon halys blomhoffii* 毒由来ホスホリパーゼ A<sub>2</sub> と動物性 α-アミラーゼインヒビター Haim の結晶化及び X 線基礎研究

修第101号 屋良 肇

μ-レセプター選択的モルヒネ分子の2量体化による δ-レセプター選択性への構造変換

## 卒業式

3月20日（月）第36回学部卒業式並びに第13回大学院修了式（学部262名、大学院修了生17名）が、来賓、父兄参列のもとに挙行された。



## 学内情報

### 人事異動

学長任用（平成元年4.1）  
藤田 榮一（学長）  
名誉教授発令（平成元年4.1）  
太田 長世  
教務部長発令（平成元年4.1）  
栗原 拓史（教授）  
研究委員長発令（平成元年4.1）  
池田 潔（教授）  
教授発令（平成元年4.1）  
玄番 宗一（第二薬理学教室）  
稲森 善彦（第一微生物学教室）  
土井 勝（物理学）  
石田 寿昌（第二物理化学教室）  
助教授発令（平成元年4.1）  
三野 芳紀（第一生薬学教室）  
藤田 芳一（第二分析化学教室）  
森本 一洋（第二薬剤学教室）  
講師発令（平成元年4.1）  
松村 靖夫（第一薬理学教室）  
藤本 陽子（第一衛生化学教室）  
黒田 和道（第二微生物学教室・新採用）  
助手発令（平成元年4.1）  
銘田 美樹（第一生化学教室）  
上村 咲子（第一物理化学教室）  
吉村由香里（化学第二教室）  
宇佐美吉英（NMR・新採用）  
谷口 雅彦（第二生薬学教室・新採用）  
中谷 恵美（第二薬剤学教室・新採用）  
副手発令（平成元年4.1）  
豊田美奈子（第二分析化学教室・新採用）  
加福やよい（第二物理化学教室・新採用）  
課長補佐発令（平成元年4.1）  
鍵田 喜平（庶務課・新採用）  
係長発令（平成元年4.1）  
秋月 延夫（経理課）  
嘱託発令（平成元年4.1）  
堀田 輝明（教授）  
福井 淳造（教授）  
水谷 泰久（教授）  
吉田 嶺吉（教授）  
杉田 勝美（資料室長）  
退任（平成元年3.31）  
小澤 貞教授・教務部長  
（任期満了につき）

井上 正敏教授・研究委員長  
（任期満了につき）  
退職（平成元年3.31）  
堀田 輝明教授（哲学）  
福井 淳造教授（英語）  
水谷 泰久教授（第二衛生化学教室）  
山本 榮子助手（生物学）  
米田 倫子助手（NMR）  
米田 祐子助手（第二生薬学教室）  
生田 絹子助手（第二分析化学教室）  
林 美江助手（第二薬剤学教室）  
井尻 温代助手（化学第一教室）  
杉田 勝美（資料室長）  
解嘱（平成元年3.31）  
太田 長世教授（第一生薬学教室）  
海外留学（平成元年1.1～1年間）  
有本 正生助教授  
留学先 カナダ国ブリティッシュコロ  
ンビア大学  
（平成元年4.1～1年間）  
大桃 善朗助手  
留学先 アメリカ合衆国ペンシルバニ  
ア大学

### 入学式

4月8日（土）平成元年度学部ならびに大学院入学式（学部入学生301名、大学院博士前期課程19名、後期課程1名）が来賓、父兄参列のもとに挙行された。



平成元年度

各部・各委員会・委員一覧

◎は各部署の長  
(平成元年4月1日現在)

教務部 ◎栗原 拓史(教授)  
中元 安雄(助教授) 木村捷二郎(助教授)  
学生部 ◎望月伸三郎(教授)  
稲森 善彦(教授) 石田 寿昌(教授)  
松村 瑛子(助教授)  
就職部 ◎沼田 敦(教授)  
千熊 正彦(助教授) 松村 瑛子(助教授)  
図書館 ◎森本 史郎(教授)  
石田 寿昌(教授) 坂田 勝治(助教授)  
学生寮 ◎碓井 信二(教授)  
望月伸三郎(教授) 馬場きみ江(助教授)  
濱中久美子(講師) 杉田 勝美(資料室長)  
薬用植物園 ◎小澤 貢(教授)  
馬場きみ江(助教授) 三野 芳紀(助教授)  
実験動物センター ◎森坂 勝昭(教授)  
酒井 清(教授) 森本 史郎(教授)  
藤田 直(教授) 池田 潔(教授)  
保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)  
稲森 善彦(教授) 安田 正秀(講師)  
動物実験委員会 ◎森坂 勝昭(教授)  
酒井 清(教授) 森本 史郎(教授)  
藤田 直(教授) 池田 潔(教授)  
保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授)  
稲森 善彦(教授) 松村 瑛子(助教授)  
安田 正秀(講師) 森本 武司(庶務課長)  
組換えDNA実験安全委員会 ◎保坂 康弘(教授)  
森坂 勝昭(教授) 堀田 輝明(教授)  
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)  
池田 潔(教授) 稲森 善彦(教授)  
石田 寿昌(教授) 森本 武司(庶務課長)  
広報委員会 ◎森本 史郎(教授)  
木村捷二郎(助教授) 松村 瑛子(助教授)  
森本 武司(庶務課長) 杉田 勝美(資料室長)  
研究委員会 ◎池田 潔(教授)

保坂 康弘(教授) 藤田 芳一(助教授)  
排水処理委員会 ◎小延 鑑一(教授)  
松永 春洋(教授) 森本 史郎(教授)  
水谷 泰久(教授)  
R I 運営委員会 ◎田中 千秋(教授)  
森坂 勝昭(教授) 酒井 清(教授)  
井上 正敏(教授) 森本 史郎(教授)  
沼田 敦(教授) 保坂 康弘(教授)  
玄番 宗一(教授) 稲森 善彦(教授)  
千熊 正彦(助教授) 木村捷二郎(助教授)  
三野 正紀(助教授)  
総務委員会 ◎藤田 榮一(学長)  
山口 秀夫(教授) 森坂 勝昭(教授)  
堀田 輝明(教授) 森本 史郎(教授)  
水谷 泰久(教授) 沼田 敦(教授)  
小澤 貢(教授) 栗原 拓史(教授)  
望月伸三郎(教授)  
施設委員会 ◎藤田 榮一(学長)  
山口 秀夫(教授) 森坂 勝昭(教授)  
堀田 輝明(教授) 井上 正敏(教授)  
水谷 泰久(教授) 田中 千秋(教授)  
沼田 敦(教授) 小澤 貢(教授)  
曾根 節子(助教授)  
大学史資料委員会 ◎曾根 節子(助教授)  
森下 利明(教授) 加藤 義春(助教授)  
馬場きみ江(助教授) 吉野 幸夫(事務局長)  
森本 武司(庶務課長) 杉田 勝美(資料室長)  
公開教育講座委員会 ◎藤田 榮一(学長)  
酒井 清(教授) 小澤 貢(教授)  
保坂 康弘(教授)



# 学内情報

## 奨学生状況 (平成元年4月1日現在)

### 1. 日本育英会 (人)

	1年	2年	3年	4年	学部計	修士	博士	総計
第1種		22	26	33	81	7	1	89
第2種	3	23	25	21	72	—	—	72
計	3	45	51	54	153	7	1	161

(学部) (円/月)

		59～61年 年度	62～63年 年度	平成元年度 以降
第1種	自宅通学	31,000	35,000	38,000
第2種	自宅外通学	41,000	45,000	48,000

(大学院) (円/月)

第1種	自宅・自宅外 通学	修士課程	72,000
		博士課程	83,000

第1種	無利息貸与	卒業後長期 分割返還 (10～20年)
第2種	利息付貸与 (年利率3%)	

### 2. その他の育英会・奨学会

	1年	2年	3年	4年	院 生	計	月 額 (円)	給・ 貸
本学父兄 会奨学会	2	5	5	1	2	15	20,000	給
小野奨学 会			1			1	20,000	給
佐藤奨学 会				1		1	17,000	給
大東育英 会		1				1	15,000	給
大阪府育 英会		6	10	1		17	17,000 ～ 21,000	貸
東大阪市 育英会			1	1		2	17,000	貸
計	2	12	17	4	2	37		

(注1) 給は給付で返還不要

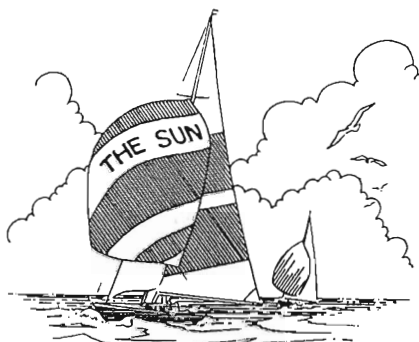
(注2) 貸は貸与で卒業後長期分割返還

(注3) 本学父兄会奨学会の人数は毎年6月に募集し当該年度のみ給付のため昭和63年度の採用実績を示す。

## 平成元年度前期行事予定

(1989年)

- 4月2日(日) 第74回薬剤師国家試験  
3日(月)  
8日(土) 入学式(学部・大学院)  
10日(月) 新入生ガイダンス, アドバイザー面談  
11日(火) 新入生健康診断, RI採血  
12日(水) 前期授業開始  
17日(月) レントゲン検診(新入生以外の学生・教職員の女子)  
18日(火) レントゲン検診(新入生以外の学生・教職員の男子)  
5月6日(土) 臨時休業  
9日(火) 創立記念日(休業)  
11日(木) 健康診断(新入生以外の女子学生)  
12日(金) 健康診断(同上の男子学生)  
13日(土) 新入生歓迎会(学友会五月祭)  
7月10日(月) 夏季休業  
9月6日(水)  
7日(木) 授業再開  
13日(水) 前期授業終了  
16日(土) 前期定期試験(1～4年次生)  
28日(木)  
29日(金) 臨時休講  
30日(土)





# 教員研究業績一覽 (1988年)

(1988.1.1~12.31)

## 1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
藤田芳一	キチン誘導体の分析化学への利用	ふんせき, 1988, 947.
木村捷二郎,他	医薬品の微生物汚染と放射線滅菌	防菌防黴誌, 16, 423 (1988)
木村捷二郎, 他	医薬品の放射線滅菌に関する認可について	防菌防黴誌, 16, 501 (1988)
井上晴嗣, 他	Molecular Evolution of Insect Cytochromes c	Report of Special Research Project on Evolution of Matter, p.289,(University of Tsukuba)
池田 潔	Phospholipases	Bioactive Molecules Vol.8, Metalloproteins:Chemical Properties and Biological Effects(S. Otsuka and T.Yamanaka,ed),p.76.Kodansha Ltd.,Tokyo,and Elsevier Science Publishers B. V.,Amsterdam, 1988
池田 潔	Ca <sup>2+</sup> によるホスホリパーゼA2の触媒機能の制御	文部省科学研究費特定研究「カルシウムイオンと細胞機能」研究業績集 p.196
栗原拓史, 春沢信哉, 米田龍司	シアノヒドリンO-ジエチルリン酸エステル類の有機合成への応用	有機合成化学協会誌, 46, 1164 (1988)
藤田 直, 藤本陽子	アラキドン酸カスケードとラジカル過酸化反応	日本臨牀, 46, 45 (1988)
森本一洋	高分子薬物の鼻腔内吸収	ファルマシア, 24, 789 (1988)
森本一洋	PVAハイドロゲルを用いた持効性経皮製剤(TTS)	高分子, 37 759 (1988)
森本史郎, 松村靖雄	降圧利尿薬の生体内動態	薬局, 39, 35 (1988)
森本史郎, 他	第1章 総論 第3章 高血圧症に用いる薬	疾患別薬理学, 1988, 広川書店
玄番宗一, 他	第15章 呼吸器疾患に用いる薬物 第19章 血液疾患に用いる薬物 第26章 病原微生物感染症に用いる薬 第27章 悪性腫瘍に用いる薬	疾患別薬理学 1988, 広川書店
保坂康弘 他	Sendai virion structure and its interaction with cellular membranes	Electron Microsc.Rev.1, 17(1988)

## 1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
保坂康弘,	ワクチン	化学と教育 36, 452, (1988)
保坂康弘	ウイルスのクライオ電顕観察法	細胞 20, 490, (1988)
加藤義春	Nationale und soziale Bewegungen in Deutschland(19.Jahrhundert)	ばいでいあ 12, 3 (1988)
望月伸三郎	日本の「体育・スポーツ」の今日的課題 —— 認識の混乱を生む行政の在り方 ——	ばいでいあ 12, 55 (1988)
熊本和正, 他	ワイヤーと力量計による水泳中の牽引力の測定 —— 簡便法を指導場面に応用 ——	日本体育大学紀要 18, 23 (1988)

## 2. 一般学術論文

著者	論文題目	掲載誌
藤田榮一, 他	Extremely Short Chiral Synthesis of Bicyclic Alkaloids Having a Nitrogen Atom Ring Junction	J. Am. Chem. Soc., <b>110</b> , 289 (1988)
藤田榮一, 他	Simplified Chiral Aminolysis of Prochiral $\delta$ -Symmetric Dicarboxylic Anhydrides with Sodium Salt of 4-(s)-IPTT	Chemistry Lett., <b>1988</b> , 381
藤田榮一, 他	Syntheses of ( <i>rac</i> )3-Substituted 4-Methoxycarbonyl-1,3-thiazolidine-2-thiones <i>via</i> Rearrangement of a Substituted Group from <i>exo</i> -S to N in ( <i>rac</i> )2-Substituted Thio-4-methoxycarbonyl- $\Delta^2$ -1.3-thiazolines	Chem. Pharm. Bull., <b>36</b> , 495(1988)
藤田榮一, 他	Substituent Effect of Benzene Ring on Thermal Rearrangement of the Substituted Benzyl Group from <i>exo</i> -S to N(3) in ( <i>rac</i> )2-Substituted Benzylthio-4-methoxycarbonyl- $\Delta^2$ -1.3-thiazolines	Chem. Pharm. Bull., <b>36</b> , 509 (1988)
藤田榮一, 他	Reactions of Vinylsilanes with Lewis Acid-Activated Lodosylbenzene: Stereospecific Syntheses of Vinylodonium Tetrafluoroborate and Their Reactions as Highly Activated Vinyl Halides	Tetrahedron, <b>44</b> , 4095 (1988)

著者	論文題目	掲載誌
藤田榮一, 他	Spectroscopic Identification of 3-Substituted 4-Methoxycarbonyl-1, 3-thiazolidine (or-Oxazolidine) -2-thiones and 2-Substituted Thio-4-methoxycarbonyl- $\Delta^2$ -1, 3-thiazolines (or-oxazolines)	Chem. Pharm. Bull., 36, 4293 (1988)
石田寿昌, 土井光暢, 上田仁司, 井上正敏	Specific Ring Stacking Interaction on the Tryptophan-7-Methylguanine System : Comparative Crystallographic Studies of Indole Derivatives-7-Methylguanine Base, Nucleoside, and Nucleotide Complexes	J. Am. Chem. Soc. 110, 2286 (1988)
石田寿昌, 阪口正明, 山本大助, 井上正敏, 他	Conformation of Ethyl (+)-(2S, 3S)-3-{1-[N-(3-Methylbutyl) amino] -leucylcarbony} oxirane-2-carboxylate (Loxistatin), a Cysteine Protease. Inhibitor : X-Ray Crystallographic and $^1\text{H}$ Nuclear Magnetic Resonance Studies	J. Chem. Soc. Perkin Trans. II 1988, 851
尹 康子, 石田寿昌, 土井光暢, 井上正敏	Conformational Study of a Histamine $\text{H}_2$ -Receptor Antagonist : Crystal Structures of 2-Acetoxy-N-[3-[ <i>m</i> -(1-piperidinomethyl)-phenoxy] propyl] acetamide (Roxatidine Acetate) and Its Hydrochloride Salt	Chem. Pharm. Bull. 36, 2295 (1988)
土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Importance of folded monomer and extended antiparallel dimer structures as enkephalin Active conformation : Molecular dynamics simulations of [Met $^5$ ] enkephalin in water	FEBS Lett. 239, 271 (1988)
山本大助, 大石宏文, 小澤 貢, 稲森善彦, 石田寿昌, 井上正敏	Study Conformations-Biological Activities Relationships for Podophyllotoxin Analogues Based on Crystal Structure of Deoxypodophyllotoxin(Anthricin)	Chem. Pharm. Bull. 36, 3239 (1988)
石田寿昌, 田中正幸, 難波江倫子, 井上正敏, 他	Solution and Solid-State Conformations of Ascidiacyclamide, a Cytotoxic Cyclic Peptide from Ascidian	J. Org. Chem. 53, 107 (1988)
土井光暢, 田中正幸, 猪熊健二, 難波江倫子, 井上正敏, 石田寿昌	Conformational characteristics of receptor-selective opioid peptides : $^1\text{H}$ n.m.r. and c.d. spectroscopic studies of $\delta$ -Kephalin and [Val $^4$ ] morphiceptin	Biochem. J. 251, 581 (1988)
石田寿昌, 土井光暢, 井上正敏	A selective recognition mode of a nucleic acid base by an aromatic amino acid : L-phenylalanine-7-methylguanosine-5'-monophosphate stacking interaction	Nucleic Acid Res. 16, 6175 (1988)
石田寿昌, 尹 康子, 大石宏文, 山本大助, 井上正敏, 田中千秋, 植野容子, 大桃善朗, 他	Structure-Activity Relationship of Aldose Reductase Inhibitors Based on X-Ray Crystal Structures of Oxazolecarbamate Derivatives	Mol. Pharmacol. 34, 377 (1988)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 土井光暢, 井上正敏, 他	Molecular-dynamics simulations of [Met <sup>5</sup> ]-and [D-Ala <sup>2</sup> , Met <sup>5</sup> ]-enkephalins : Biological implication of monomeric folded and dimeric unfolded conformations	Biochem. J. 255, 621 (1988)
上田仁司, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	A possible recognition mode of mRNA cap terminal structure by peptide : cooperative stacking and hydrogen-bond pairing interactions between m7GpppA and Trp-Leu-Glu	Biochem. Biophys. Res. Commun. 154, 199 (1988)
石田寿昌	トリプトファンの生体分子との相互作用に関する構造化学的研究	薬学雑誌 108, 506 (1988)
石田寿昌, 尹 康子, 他	Structures of Taxane Diterpenoids from the Seeds of Japanese Yew. <i>Taxus cuspidata</i>	Chem. Pharm. Bull. 36, 2098 (1988).
石田寿昌, 他	Studies on the Chemical Modification of Monensin. I. Synthesis and Crystal Structures of NaBr Complexes of Monensylamino Acids	Chem. Pharm. Bull. 36, 4776 (1988)
石田寿昌, 他	Synthesis of Corynantheine Alkaloids with (19 <i>E</i> )-Ethylidene Group : On the Structures of Rhazimanine and Bhimberine	Heterocycles, 27, 1603 (1988)
石田寿昌, 尹 康子, 他	Furopyridines. IX 1. Synthesis and Properties of 3-Ethoxy Derivatives of Furo [2,3- <i>b</i> ]-, Furo [3,2- <i>b</i> ]-Furo [2,3- <i>c</i> ] Pyridine	J. Heterocyclic Chem. 25, 1205 (1988)
大石宏文, 他	Refined X-Ray Structure of the Low pH Form of Ribonucleases T1 2'-Guanylic Acid Complex at 1.9 Å Resolution	J. Biochem. 103, 354 (1988)
大石宏文, 土井光暢, 井上正敏	VAX/VMS用低, 中分子X線結晶構造解析システム	DECUS論文集 1987年版
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 田中 毅, 中橋義弘, 飯塚真弓	The spectrophotometric determination of gallium (III) using <i>o</i> -hydroxyhydroquinonephthalein in the presence of surfactant micellar	Anal. Lett., 21, 279 (1988).
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 中橋義弘, 岸田幸代	Xylenol orange, zirconium (IV) and fluoride color reaction in mixed micelles of N-hexadecylpyridinium chloride and Brij 35, and its analytical application	Anal. Lett., 21, 563 (1988)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 鎌田吉介, 越山陽三, 中橋義弘	Spectrophotometric determination of nitrite ion or chloramine T with gallein-molybdenum complex and cobalt (II) with gallin and hydrogen peroxide in a micellar media	Anal. Lett., 21, 1689 (1988).
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 中橋義弘, 加藤圭司, 中村智子	Color Reaction between 4-(2-pyridylazo) resorcinol and mercury (II) in the presence of surfactant, and improved spectrophotometric determination of mercury (II) and cyanide ion with its coloring	Anal. Lett., 21, 2359 (1988)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田芳一, 森 逸男, 藤田絹子, 中橋義弘	Application to analytical chemistry of saponins: Application of saponin as a surfactant having complex-forming ability to spectrophotometry of iron ion	Chem. Pharm. Bull., 36, 254 (1988)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 藤田理佳, 中橋義弘, 加藤圭司	Spectrophotometric determination of bismuth (III) with o-hydroxyhydroquinoneph-thalein in the presence of Bril 58	Talanta, 35 879 (1988).
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 中橋義弘, 田中 毅, 石原節子	Highly sensitive spectrophotometric determination of cobalt using o-hydroxyhydroquinoneph-talein and hydrogen peroxide in the presence of mixed surfactants	Fresenius Z.Anal.Chem. 330 619 (1988).
千熊正彦, 他	Elimination of Interference of Aluminum Ion by a Novel Resin Prepared from Desferrioxamine and Polyallylamine Beads and Its Application to the Determination of Fluoride Ion	J. Fluorine Chem., 41, 25 (1988)
千熊正彦, 他	Thiol Exchange reaction Involving Selenotrisulfides	Biochem. Biophys. Res. Commun., 150, 1149 (1988)
千熊正彦, 他	Selective Collection of Fluoride Ion on an Anion-exchange Resin Loaded with Alizarin Fluoride Blue Sulphonate	Analyst, 113, 829 (1988)
千熊正彦, 他	Determination of Selenium in Sediments by Hydride Generation Atomic Absorption Spectrometry.Elimination of Interferences	Fresenius'Z. Anal. Chem., 330, 600 (1988)
木村捷二郎	高塩分放射性廃液の減容処理のための化学的一方法	ESI-NEWS, 6, 9 (1988)
木村捷二郎	Improvement of Tritium Enrichment Electrolysis Cell for Environmental Monitoring	Radiation Protection, 1, 540 (1988)
木村捷二郎, 他	Vertical Distribution of Natural Radioactive Nuclides in Soil (Depth of 0 to 30 cm)	Radiation Protection, 2, 914 (1988)
大倉一人, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Amino-acid sequences of four cytotoxins (cytotoxins I, II, III and IV) purified from the venom of the Thailand cobra, <i>Naja naja siamensis</i>	Biochim. Biophys. Acta, 954, 148 (1988)
田中麗子, 松永春洋	Triterpene Constituents from <i>Euphorbia Supina</i>	Phytochemistry 27, 3579 (1988)
田中麗子, 田伏美弥子, 松永春洋	Triterpenes from the stem bark of <i>Phyllanthus flexuosus</i>	Phytochemistry 27, 3563 (1988)
田中麗子, 松永春洋	Triterpene dienols and other constituents from the bark of <i>Phyllanthus flexuosus</i>	Phytochemistry 27, 2273 (1988)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
松永春洋, 田中麗子, 赤木昌夫	Triterpenoids from <i>Euphorbia maculata</i>	Phytochemistry 27, 535 (1988)
田中麗子, 松永春洋, 石田寿昌	Revised structure of Trichadenic Acid B, A stem bark constituent of <i>Phyllanthus flexuosus</i>	Tetrahedron Lett. 29, 4751 (1988)
松原義隆, 米田龍司, 春沢信哉, 栗原拓史	Recyclization of 2-Oxotetrahydro-1, 3-oxazines Accompanied by Decarboxylation: A Convenient Synthesis of Tetrahydropyridine, Quinolizidine. and Indolizidine Skeletons	Chem. Pharm. Bull., 36, 1597 (1988)
松原義隆, 米田龍司, 春沢信哉, 栗原拓史	An Abnormal Reaction of N-tert-Butoxycarbonyl Group: Mechanistic Consideration for the Preparation of 2-Oxotetrahydro-1, 3-oxazine	Heterocycles, 27, 667 (1988)
米田龍司, 春沢信哉, 栗原拓史	Synthesis of (Z)-Predominant $\alpha,\beta$ -Unsaturated Nitriles from Enone Cyanohydrin Diethyl Phosphates: Application to the Synthesis of ( $\pm$ )-Nuciferal, ( $\pm$ )-(E)-and (Z)-Nuciferol, and ( $\pm$ )-Manicone	J. Chem. Soc. Perkin Trans. I, 1988, 3163.
春沢信哉, 他	A Synthesis of Taxusin	J. Am. Chem. Soc., 110,6558 (1988)
三野芳紀, 田中和美, 宇佐美秀子, 太田長世	生薬の無機化学的研究 (第3報) ケイ光X線法による生薬中の無機成分の検討 (その2) 鈳物生薬・竜骨について	生薬学雑誌, 42, 310 (1988)
三野芳紀, 宇佐美秀子, 井上正敏, 太田長世	生薬の無機化学的研究 (第4報) 鈳物生薬・芒消の無機成分について	生薬学雑誌, 42, 317 (1988)
三野芳紀, 他	Spectral Characterization of Manganese Peroxidase, an Extracellular Heme Enzyme from the Lignin-degrading Basidiomycete, <i>Phanerochaete chrysosporium</i>	J. Biol. Chem. 263, 7029 (1988)
馬場きみ江, 前田薫, 多幡祐子, 土井光暢, 小澤 貢	Chemical Studies on the Heartwood of <i>Cassia Garrettiana</i> CRAIB. III. Structures of Two New Polyphenolic Compounds	Chem. Pharm. Bull. 36 2977 (1988)
小延鑑一, 松本和子, 沢西謙次	透析患者血液ろ過物中の疎水性尿毒中分子物質	日腎誌, 30, 151 (1988)
小延鑑一, 松本和子, 沢西謙次	透析患者血液ろ過物中の疎水性尿毒症中分子量蛍光成分	日腎誌, 30, 161 (1988)
藤田 直, 藤本陽子, 和田孝一郎, 金子美佳, 佐久間覚, 他	Effect of tiopronin on prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla slices	J. Pharm. Pharmacol., 40, 650 (1988)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤本陽子, 坂本紀文, 北浦弘美, 池田悦子, 藤田 直	Stimulatory action of ascorbic acid on methyl mercury-induced lipid peroxidation in rabbit kidney cortex slices	Res. Commun. Chem.Pathol. Pharmacol., 60, 121 (1988)
藤本陽子, 西岡和幸, 長谷ゆかり, 佐道清美, 藤田 直	Triacylglycerol lipase-mediated release of arachidonic acid for renal medullary prostaglandin synthesis	Arch. Biochem. Biophys., 261, 368 (1988)
森本一洋, 中村孝祐 中井 享, 森坂勝昭	Effects of Liposomes on Permeability of Various Compounds through Rabbit Corneas	Arch. Int. Pharmacodyn. Ther., 293, 7 (1987)
畠山容子, 森本一洋, 安田正秀, 中元安雄, 森坂勝昭, 他	Lymphatic and plasma transport of 1-(2-tetrahydrofuryl)-5-fluorouracil by Polyacrylic acid aqueous gel after rectal administration and its antitumor effect on Yoshida sarcoma implanted in rats	Int. J. Pharma., 41, 21, (1988)
井川智恵, 斎藤友希子, 酒井 清, 他	Glycogenolysis in the Rat Isolated Perfused Liver as a Measure of Chemically Induced Liver Toxicity	J. Pharm. Pharmacol. 40, 333 (1988)
酒井 清, 他	The Effects of Salicylate Concentration on the Uptake of Salicylate and Cefmetazole into Rat Isolated Small Intestinal Epithelial Cells	J. Pharm. Pharmacol. 40, 469 (1988)
酒井 清, 他	Protective effect of salicylate against 2,4-dinitrophenol-induced protein thiol loss in the small intestine of rats	J. Pharm. Pharmacol. 40, 516 (1988)
酒井 清, 他	Inhibitory effect of salicylate on 2,4-dinitrophenol and diethyl maleate in isolated rat intestinal epithelial cells	Biochim. Biophys. Acta. 970, 7 (1988)
酒井 清, 他	Griseofulvin-Hydrogenated Soya Phospholipid Coprecipitates	Drug Dev. Ind. Pharm. 14, 1137 (1988)
斎藤友希子, 酒井 清, 他	Intestinal Absorption of N,N'-Dimethyl-carbamoylmethyl 4-(4-Guanidinobenzoyloxy) Phenylacetate Methanesulfonate in Rats	Chem. Pharm. Bull. 36, 2544 (1988)
井川智恵, 酒井 清, 他	Enhancement of Small Intestinal Absorption of N,N'-Dimethyl-carbamoylmethyl 4-(4-Guanidinobenzoyloxy) Phenylacetate Methanesulfonate (FOY305®) in Rats	Chem. Pharm. Bull. 36, 2703 (1988)
井川智恵, 斎藤友希子, 酒井 清, 他	Glucose Release from Isolated, Perfused Liver of Alloxan-Diabetic Rats	Chem. Pharm. Bull. 36, 3678 (1988)
酒井 清, 他	Effect of 2,4-Dinitrophenol on Transport of Cefmetazole and Diclofenac from Thigh Muscle Tissue and from Intestinal Connective Tissue into Blood Circulation in Rats	Chem. Pharm. Bull. 36, 3683 (1988)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
酒井 清, 他	Percutaneous absorption of diclofenac in rats and humans : aqueous gel formulation	Int. J. Pharmaceut. 46, 1 (1988)
酒井 清, 他	Effects of Dithiothreitol and Ascorbate on the Penetration of Diclofenac Across Excised Rat Dorsal Skin	Pharm. Res. 5, 738 (1988)
高岡昌徳, 中村雅胤, 西井幹雄, 柏木洋子, 森本史郎	Immunological identification of rat urinary inactive kallikrein as a proform of tissue Kallikrein	Biochem. Int., 16, 719 (1988)
岩本隆宏, 井原きみ子, 高岡昌徳, 森本史郎	Effect of sodium intake on urinary renin excretion in rats	J. Pharmacobio-Dyn., 11, 245 (1988)
松村靖夫, 川添新花, 市原敏夫, 慎山浩史, 景山正明, 森本史郎	Stimulatory effects of neuronally released norepinephrine on renin release from rat kidney cortical slices	Clin. Exp. Hyper., A10, 1305(1988)
松村靖夫, 川添新花, 市原敏夫, 慎山浩史, 景山正明, 森本史郎	Stimulatory effects of neuronally released norepinephrine on renin release in vitro	Am. J. Physiol., 255, F614 (1988)
松村靖夫, 小山佳子, 慎山浩史, 瓜生斗支子, 市原敏夫, 森本史郎	Calmodulin-independent stimulation of renin release by exposure of rat kidney cortical slices to calcium	Clin. Exp. Pharmacol., 15, 585 (1988)
玄番宗一, 福石信之, 中野さち子	Effect of N-N'-Diphenyl- <i>p</i> -phenylenediamine Pretreatment on Urinary Enzyme Excretion in Cisplatin Nephrotoxicity in Rats	Japan. J. Pharmacol. 46, 90(1988)
保坂康弘, 他	Recognition of noninfectious influenza virus by class I-Restricted murine cytotoxic T lymphocytes	J. Immunology 140, 606, (1988)
保坂康弘, 他	Cells process exogenous proteins for recognition by cytotoxic T lymphocytes	Science 239, 637, (1988)
保坂康弘, 他	Cryoelectron microscopy of vitrified Sendai virions	J. Virological Methods 22, 347, (1988)
辻坊 裕, 佐藤 孝, 乾 勝, 山本尚史, 稲森善彦	Intracellular Accumulation of Phenazine Antibiotics Produced by an Alkalophilic Actinomycete. I. Taxonomy, Isolation and Identification of Phenazine Antibiotics	Agric. Biol. Chem., 52, 301 (1988)
稲森善彦, 小林豊秀, 小川雅史, 辻坊 裕	Biological Activities of Hexestrol	Chem. Pharm. Bull. 36, 815 (1988)
稲森善彦, 辻坊 裕, 他	Effect of 3,3'-Dihydroxy- $\alpha,\beta$ -diethyldiphenyl-ethane on Coronary and Mesenteric Arteries Isolated from Guinea-Pig	Chem. Pharm. Bull., 36, 1252 (1988)



著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
稲森善彦, 富永裕子, 奥野 誠, 佐藤浩史, 辻坊 裕	Antimicrobial Activity on Plant-Pathogenic Microorganisms and Phytogrowth-Inhibitory Activity of Streptothricin Antibiotics, Racemomycin-A and -C	Chem. Pharm. Bull., 36, 1577 (1988).
稲森善彦, 辻坊 裕, 小川雅史, 他	Antifungal Activity against Plant-Pathogenic Fungi and Phytogrowth-Inhibitory Activity of 3,3'-Dihydroxy- $\alpha,\beta$ -diethyldiphenylethane	Chem. Pharm.Bull., 36, 3173 (1988)
小澤 貢, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他	The Conversion of Deoxypodophyllotoxin to Epipodophyllotoxin by <i>Penicillium</i> F-0543	Agric. Biol. Chem., 52, 2673 (1988)
土井 勝, 他	Neutrino masses in superstring-inspired models	Physical Review, D 37, 1923 (1988)
土井 勝, 他	Neutrinoless double-beta decay with Majoron emission	Physical Review, D 37, 2575 (1988)
土井 勝, 他	On the approximations of the double-beta decay formulae	Physical Review, C 37, 2104 (1988)

# コ ブ シ



シ *M. stellata* (写真下) がある。このシデコブシは岐阜県、愛知県、長野県に自生が見られるが、前二者に比べ野生は少ない。しかし、樹形が小型にまとまり、花が美しく芳香があるため庭木とされる。

鎮静、鎮痛薬として、鼻炎や蓄膿症などに伴う頭痛、頭重に應用される有名な生薬に辛夷(しんい) *Magnoliae Flos* があるが、その日本産の基源植物として上記の三種が挙げられている。現在の市場品は、日本産

コブシ *Magnolia kobus* DC. (写真上) は北海道から九州までの温帯～暖帯に生育する落葉高木で、3～5月、葉に先だって径6～10cm、基部が桃色を帯びる白色花を枝先に頂生する。季節の花として村里の生活に溶け込んでおり、東北地方では「タウチザクラ」と呼び、コブシが咲く頃に田打ちを行い、長野県や京都府の一地方では「コブシの咲く頃に味噌を仕込むとよい」と云い、鹿児島県の大隅町では、「コブシの咲くときが甘藷の床出しの時期」とする。また、栃木県の上都賀郡では「イモウエバナ」といって、この花の咲く頃にサトイモの植え付けにかかる。コブシの名は「拳」で、果実あるいは蕾の形に由来すると言われる。非常によく似たものにタムシバ *M. salicifolia* があり、山里では特にこの二者を区別することはないようで、先の季節花として見るときには、このタムシバも含んでいると思われる。近縁のものに、少し小型で花卉の多いシデコブ

の殆どがタムシバの蕾で、中国産は *M. fargesii*、モクレン *M. liliflora* の蕾、韓国産はハクモクレン *M. denudata* の蕾が多いと言われている。

(文・小澤 貢, 写真・喜多俊二)

